要介護認定調査項目に追加するアセスメント項目の記入方法

【6-① 基本（身体機能・起居）動作】

1-14 関節の動く範囲の制限の有無について、あてはまる番号すべてに○印をつけてください。（複数回答可）

1.ない 2.肩関節 3.肘関節 4.股関節 5.膝関節 6.足関節 7.その他

【判断基準】

「関節の動く範囲の制限」とは、調査対象者が可能な限り力を抜いた状態で他動的に関節を動かしたときに、関節の動く範囲が著しく狭くなっている状況を言う。「ない」は制限がない場合を指す。手指関節等や四肢欠損等がある場合は「7.その他」を選択する。この場合、制限を受けている部位や状況について要点を具体的に「特記、解決すべき課題など」に記入する。

要介護認定調査項目に追加するアセスメント項目の記入方法

【6-② 生活機能（食事・排泄等）】

2-13 飲水について、あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

1.自立 2.見守り等 3.一部介助 4.全介助

【判断基準】

「自立」は自分で水道やペットボトル等から水等をコップや茶わんに入れて適正量を判断して飲める場合、「見守り等」は茶わん、コップ等に入れられたものを手の届く範囲に置けば自分で飲める場合、「一部介助」は茶わん、コップ等を手渡すか、口元まで運ぶ等の介助が行われている場合、「全介助」は自分で全く飲水せず、介助のすべてが行われている場合を言う。

【6-③ 認知機能】

3-10 介護者の発言への反応について、あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

- 1.介護者の言っていることが通じる
- 2.介護者の言っていることがときどき通じる
- 3.介護者の言っていることが通じない

【判断基準】

本項目では介護者からの問いかけや指示等の意思伝達に対する反応について判断する。

- 1.は「嫌だ」と答える場合や聞こえないふりをする場合も含む。
- 2.は、複雑な指示になると意思伝達ができなくなる場合や指示する場合により反応したり、しなかったりする場合を含む。
- 3.は認知症等の場合や失語症ではないにもかかわらず反応しない場合を言う。

要介護認定調査項目に追加するアセスメント項目の記入方法

【6-④ 精神・行動障害】

4-16 (幻視・幻聴) 実際にはないものが見えたり、聞こえることについて、あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

1.ない 2.ときどきある 3.ある

4-17 暴言や暴行について、あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

1.ない 2.ときどきある 3.ある

4-18 目的もなく動き回ることにについて、あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

1.ない 2.ときどきある 3.ある

4-19 火の始末や火元の管理ができないことについて、あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

1.ない 2.ときどきある 3.ある

4-20 不潔な行為を行う(排泄物を弄ぶ)ことについて、あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

1.ない 2.ときどきある 3.ある

4-21 (異食行動) 食べられないものを口に入れることについて、あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

1.ない 2.ときどきある 3.ある

【判断基準】

「ない」は、過去1か月間に1度も現れたことがない場合やほとんど月1回以上の頻度で現れない場合、「ときどきある」は、少なくとも月1回以上、1週間に1回未満の頻度で現れる場合、「ある」は、少なくとも1週間に1回以上の頻度で現れる場合をそれぞれいう。

要介護認定調査項目に追加するアセスメント項目の記入方法

【6-⑤ 社会生活（への適応）力】

5-7 電話の利用について、あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

1.自立 2.一部介助 3.全介助

【判断基準】

電話の利用にかかわる一連の行為を評価する。一連の行為とは、電話をかけたり、受けたりする操作、電話での話を理解する、必要な伝言をする等の行為も含まれる。

5-8 日中の活動（生活）状況等について、あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

1.よく動いている 2.座っていることが多い 3.横になっていることが多い

【判断基準】

本項目は、日中の生活等に関する活動状況を確認する項目で、6-⑤5-7、5-8関係のチェック欄や<社会活動の状況>において詳細を記入する。疾患等のため医療機関から活動性の制限を受けている場合は、その理由・指導内容を「特記、解決すべき課題など」に記載する。また、義足や装具の装着、歩行補助具などを使用している場合は、使用時の状況に基づいて判断し、見守りなどが必要であれば、同様に「特記、解決すべき課題など」に記載する。

5-9 （家族・居住環境・社会参加の状況などの変化）生活の不活発化の原因となるような家族・居住環境、社会参加等の状況の変化について、あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

1.ない 2.ある

【判断基準】

生活の不活発化の原因となる状況の変化があっても、生活が変わらない、むしろ活発になる場合等は「ない」と判断する。また、生活の不活発化に強い影響を与えているような変化があった場合、その具体的な状況は、「特記、解決すべき課題など」に記載する。